取扱説明書

ポータブルアンプ　KZ-25

スピーカー

本　体

このたびは、TOAポータブルアンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

TOA株式会社

目　次

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保存してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号		行為を強制する記号	
分解禁止	禁　止	強　制	電源プラグを抜け

⚠ 警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

禁　止

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき

電源プラグを抜け

⚠ 警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

使用するとき

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁　止

内部に異物を入れない

本機の通風口やカセット挿入口（カセットプレーヤー）などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

⚠ 注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

禁　止

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

禁　止

移動させるときは電源プラグを抜く

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

通風口をふさがない

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。また、通風口にほこりがたまらないよう定期的に掃除をしてください。

禁　止

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

禁　止

本機を通路などに置かない

通路など、人が足を引っ掛ける可能性がある場所には置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

⚠注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容
および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

使用するとき

上に重いものを置かない
本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となること
があります。

禁　止

電源を入れる前には音量を最小にする
音量を上げたまま電源を入れると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因
となることがあります。

強　制

長時間、音が歪んだ状態で使わない
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁　止

電源プラグやコンセント部の掃除をする
電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となる
ことがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、電源プラグは根元まで差し込んでください。

強　制

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意
お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源ス
イッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
守らないと、感電・火災の原因となることがあります。

電源プラグ
を抜け

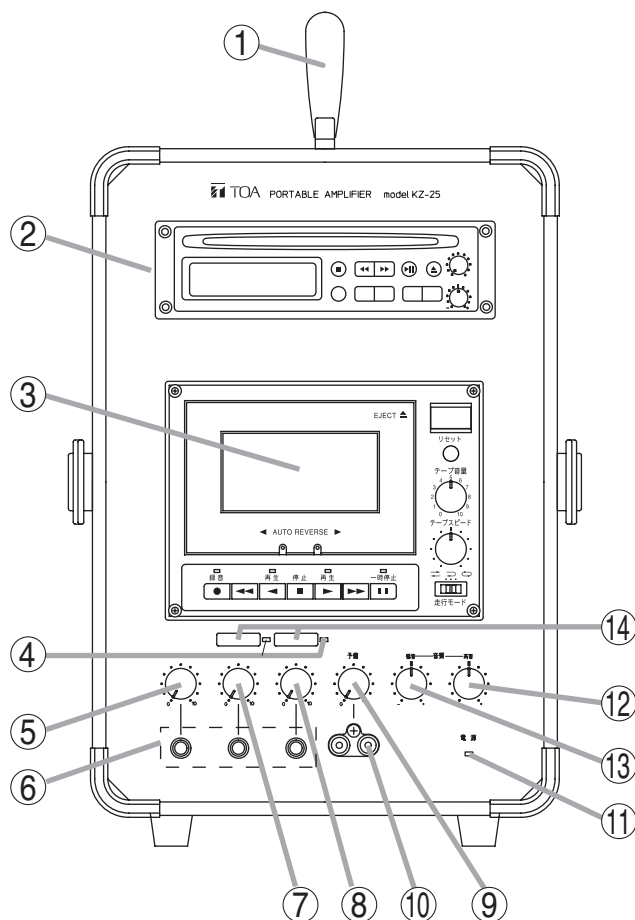
電源コードの取り扱いについて

付属の電源コードは、本機専用品です。
本機以外の機器に使用しないでください。

上手にお使いいただくために

- 正面（スピーカーのある面）を聞き手の方向に向けて設置すると、ハウリングが起こりにくくなります。
  ハウリングが起きるときは、マイクをスピーカーから離すか、音量を下げて使用してください。
- 床面よりも机の上など少し高い位置に設置した方がスピーカーからの音が明瞭に聞こえます。また、ワイヤレスマイクもより遠くまで使用することができます。
- ワイヤレスマイクを移動しながら使用すると、電波の反射や干渉によってデッドポイントと呼ばれる、急に音がとぎれる場所が発生することがあります。
  デッドポイントを解消するためには、本機を壁や机から離すか、設置場所を1～2ｍ動かしてください。
- 混信が発生したりワイヤレスマイクの電波が届きにくかったりすることがありますので、蛍光灯やパソコンなどの高周波雑音を発生する機器から本機を離して設置してください。
- ワイヤレスマイクと本機はなるべく３ｍ以上離して使用してください。
  ３ｍ以内で使用すると、雑音が発生したり混信の原因になったりすることがあります。
- 保管するとき、自動車のトランクや荷台に積み込んで移動するときは、必ず本体のハンドルが上になるようにしてください。CDプレーヤーが正常に動かなくなったり音飛びの原因になったりします。
- 清掃は必ず電源を切ってから、乾いたやわらかい布でふいてください。また、ひどい汚れは中性洗剤をしみこませた布を使用してください。ベンジン・シンナー・アルコール類・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。変形、変色の原因となります。

各部の名称とはたらき

［前面］

1. ハンドル
持ち運びのときに使用します。

ご注意

このハンドルは、本機を運ぶときにだけ使用するものです。このハンドルで本機を吊り下げるような設置は絶対にしないでください。

2. CDプレーヤーユニット
操作方法は「CDプレーヤーの使いかた」（☞ P. 10）をお読みください。

3. カセットデッキ
操作方法は「カセットデッキの使いかた」（☞ P. 24）をお読みください。

4. ワイヤレス受信表示ランプ
ワイヤレスマイクの電波を受信すると点灯します。

5. マイク1音量つまみ［マイク1］
マイク1入力ジャック（6）に接続された有線マイクロホンの音量を調節します。

6. マイク1、2、3入力ジャック
有線マイクロホンを接続します。
適合マイクロホン：600 Ω、–50 dB、不平衡

7. マイク2／ワイヤレス1音量つまみ［マイク2／ワイヤレス1］
マイク2入力ジャック（6）に接続された有線マイクロホンまたはワイヤレスマイク1の音量を調節します。

※ ワイヤレスチューナーは別売品です。

8. ワイヤレス2／マイク3音量つまみ［ワイヤレス2／マイク3］
ワイヤレスマイク2またはマイク3入力ジャック（6）に接続された有線マイクロホンの音量を調節します。

※ ワイヤレスチューナーは内蔵されています。

ご注意

ワイヤレスマイク（別売）と内蔵のワイヤレスチューナーのグループチャンネルを合わせてください。
詳しくは「周波数の設定のしかた」（☞ P. 20）をお読みください。

9. 予備入力音量つまみ［予備］
予備入力に接続した機器の音量を調節します。

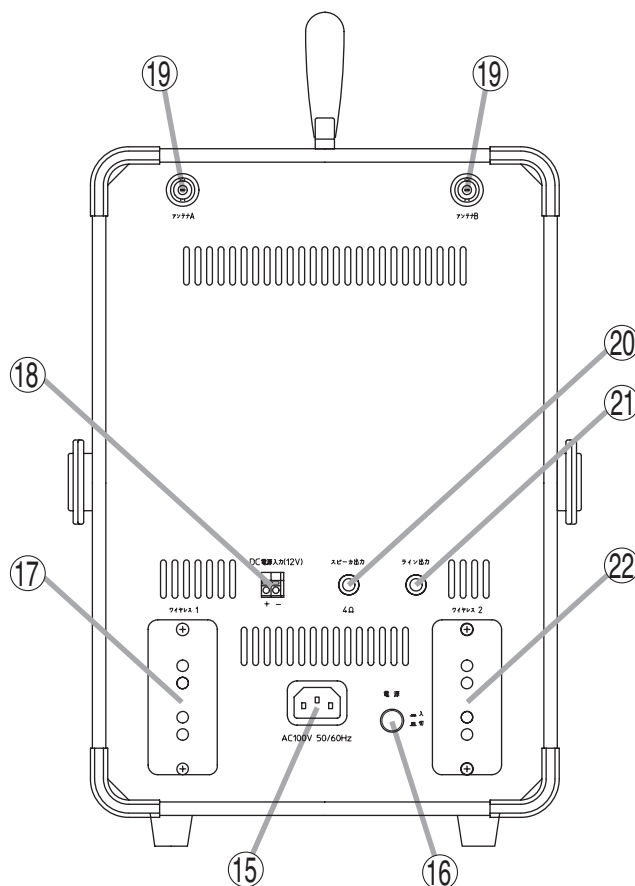
10. 予備入力
ポータブルMDプレーヤー、ラジカセなどを接続します。
ステレオで接続してください。内部でミキシングしてモノラルにします。
（RCAピンジャック×2、10 kΩ不平衡、–20 dBV）

11. 電源表示灯［電源］
電源が入ると点灯します。

12. 高音音質調節つまみ［高音］
高音が左に回すと減衰し、右に回すと増強されます。

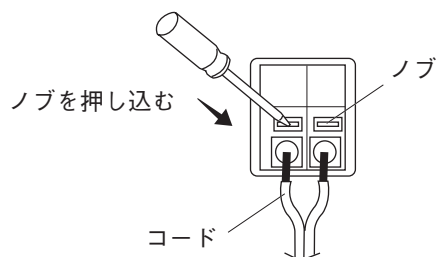
13. 低音音質調節つまみ［低音］
低音が左に回すと減衰し、右に回すと増強されます。

14. カラーマーク貼り付け位置
使用するワイヤレスマイクと同じカラーマークを貼ってください。

［後面］

15. AC電源インレット
付属の電源コードをしっかり差し込んでから電源プラグをコンセントに接続してください。

16. 電源スイッチ
「入（ ▬ ）」にすると電源が入り、「切（ ■ ）」にすると電源が切れます。

17. ワイヤレスチューナー収納部（ワイヤレス1）
ワイヤレス1のチューナーは別売品です。適合するワイヤレスチューナーは、WTU-1820ダイバーシティチューナーユニットです。

18. DC電源入力端子
外部電源（DC 12 V）を接続してください。
小型のマイナスドライバーでノブを押し込んで、穴にコードを下図のように差し込んでください。

19. ワイヤレスアンテナソケット
付属のアンテナ2本を必ず取り付けてください。

ご注意

ワイヤレスアンテナを1本だけ取り付けて使用すると、ワイヤレスマイクの音声が途切れたり通達距離が極端に短くなったりすることがあります。

20. スピーカージャック
本機のスピーカーコードのプラグを接続してください。

ご注意

他のスピーカーは使用しないでください。

21. ライン出力ジャック
他の放送設備を使って本機の信号を放送したいときは他の設備のパワーアンプ（電力増幅器）の入力端子をこのジャックに接続してください。

22. ワイヤレスチューナー収納部（ワイヤレス2）
ワイヤレス2のチューナーは内蔵されています。

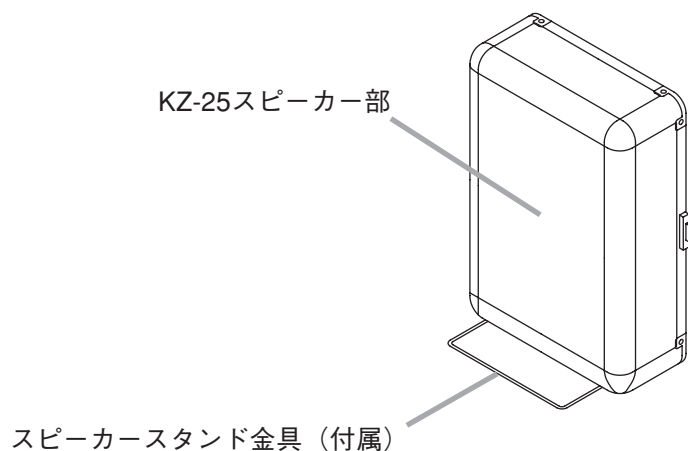
ご注意

別売のワイヤレスマイクと内蔵ワイヤレスチューナーのグループ、チャンネルを合わせてください。
詳しくは「周波数の設定のしかた」（☞ P. 20）をお読みください。

接続のしかた

800 MHz帯ワイヤレスマイクロホン
有線マイクロホン
有線マイクロホン
ご注意
マイク2、マイク3の入力ジャックに有線マイクロホンを接続すると、ワイヤレスマイクは切断されます。
MDプレーヤーなどを接続するときはL、Rの両方を接続してください。機器内部でミキシングされます。
建物の放送設備などを使うとき
外部アンプなど
アンテナ（付属）は必ず2本ともまっすぐ立てて接続してください。
PORTABLE AMPLIFIER model KZ-25
EJECT
AUTO REVERSE
スピーカー
ご注意
本機のスピーカー以外は使用しないでください。
12 Vバッテリー
12 Vバッテリーに ⊕ ⊖ の極性を間違えないように接続してください。
電源コードのプラグは壁面などのコンセントにしっかり差し込んでください。
電源コード（付属）

スピーカースタンド金具の取り付けかた

● 取り付け完成図

● 取り付けかた

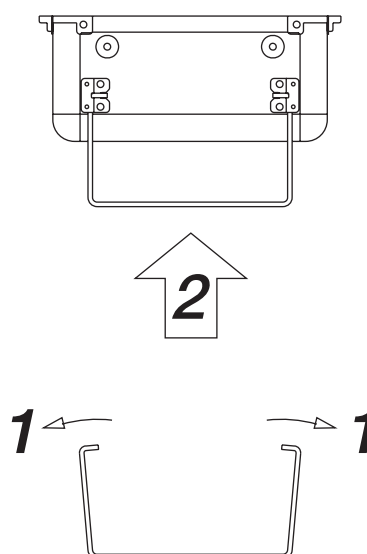
1 付属のスピーカースタンド金具を矢印の方向に少し広げる。

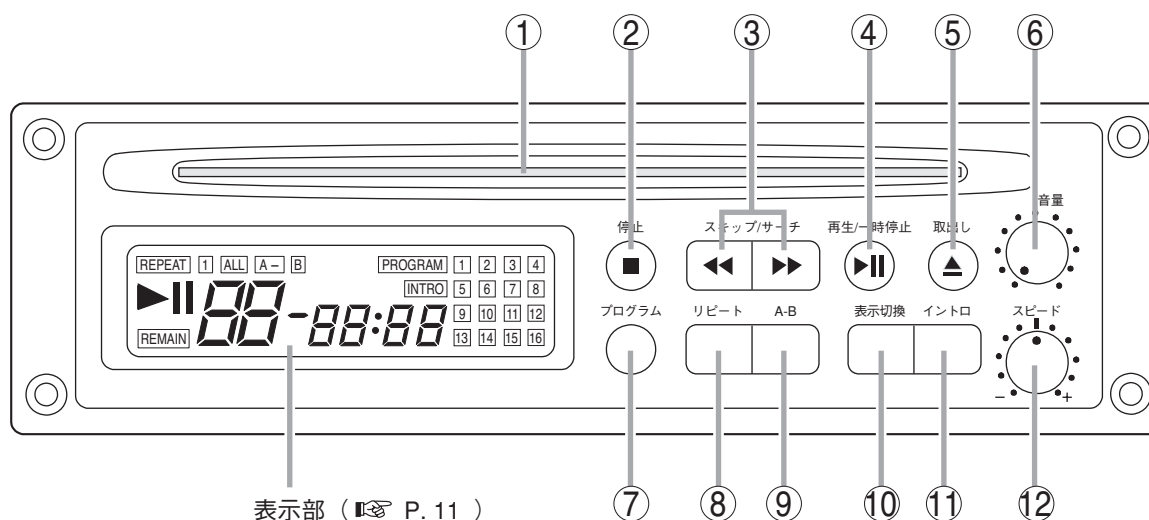
2 スピーカースタンド金具を広げたまま、スピーカー部底面にある金具の穴に差し込む。

※ スピーカーを自立させることができます。

※ 使用後は同様にスピーカースタンド金具を少し広げて外します。

ご注意

金具の取り付けや取り外しのときは、金具に指をはさまないように注意してください。

CDプレーヤーの使いかた

■ 各部の名称とはたらき

1. ディスク挿入口
ディスクの印刷面（レーベル面）を上にして入れてください。
自動的に収納し、読み込みが完了すると表示部にトラック数とディスクに収録されている合計時間、トラック表が表示され、CD読み込み完了状態で待機します。

2. 停止キー［ ■ ］
押すと、すべての動作状態を解除してCD読み込み完了状態になります。

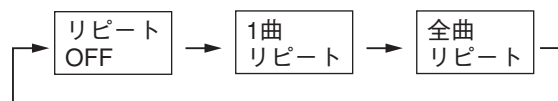
3. スキップ／サーチキー［ ◀◀ 、▶▶ ］
▶▶ キーを押すと、次の曲の頭にジャンプします。ディスクの最後の曲で押すと、ディスクの最初の曲の頭にジャンプします。また、このキーを押し続けると、早送り（CUE）になります。
◀◀ キーを1秒以上演奏されてから押すと、演奏中の曲の頭にジャンプします。曲の頭から1秒未満に押すと、1つ前の曲の頭にジャンプします。また、このキーを押し続けると、レビュー（REV）になります。

4. 再生／一時停止キー［ ▶II ］
CD読み込み完了後に押すと、1曲目から演奏を開始します。演奏中に押すと、一時停止状態になります。また、一時停止状態で押すと、一時停止された位置から演奏を再開します。

5. 取り出しキー［ ⏏ ］
押すと、CDを排出します。演奏中に押すと、停止を経由してCDを排出します。

6. CD音量つまみ
CDの音量を調節します。つまみを時計方向に回すと音が大きくなり、反時計方向に回すと音が小さくなります。

7. プログラムキー
演奏する曲と曲順を自由に設定できます。
最大20曲まで登録できます。
（ ☞ P. 15「プログラム演奏をする」）

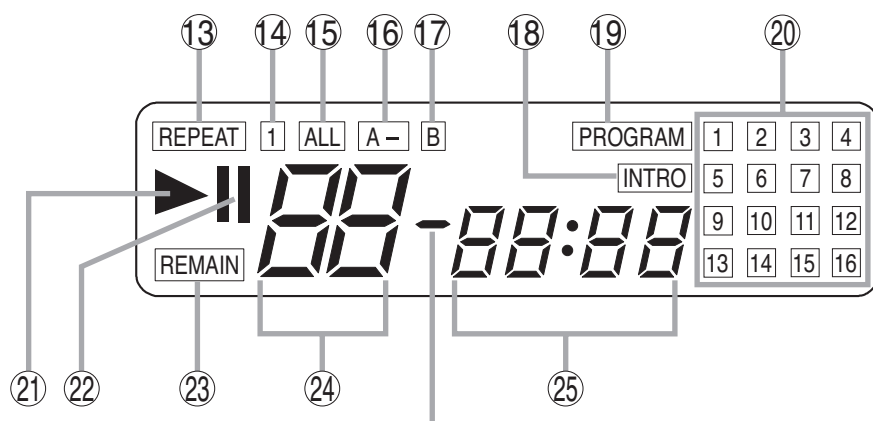
8. リピートキー
CD読み込み完了後にスキップ／サーチキー（3）で演奏したい曲のトラックを選んだ場合、リピートキーを押してから再生／一時停止キー（4）を押すと、選んだ曲をリピート演奏します。
CD読み込み完了後（リピートOFF）、このキーを押すごとに以下の演奏状態になります。

9. A-Bリピートキー［A-B］
A地点からB地点までをリピート演奏します。演奏中に押すとA地点を記憶し、もう一度押すとB地点を記憶します。
A-Bリピート演奏中に、このキーを押すとA-Bリピートを解除します。

10. 表示切り換えキー
CD演奏中に押すと、演奏中の曲の残り時間を表示します。もう一度押すと、演奏中のCDの残り時間を、さらに押すと演奏中の曲の経過時間を表示します。

11. イントロキー
CD読み込み完了状態で押すと、CDに収録されているすべての曲の頭から10秒間ずつ順番に演奏します。最後の曲の10秒間が終わると、CD読み込み完了状態で停止します。

12. スピード調節つまみ
演奏スピードの調節をします。
つまみの指針が中央のときが標準スピードです。
つまみを時計方向（＋側）に回すとスピードは速くなり、反時計方向（－側）に回すとスピードは遅くなります。

［表示部］

- CDが入っていないときは「no disc」の表示をしていますが、照明は節電のため消えています。
- CDをディスク挿入口に入れると、自動的に収納し表示部の照明が点灯します。
- CD読み込み完了後は、収録されているトラック数（曲数）、全曲時間、およびトラック表を表示します。

13. リピート表示
リピート動作のときに点灯します。

14. 1曲リピート表示
1曲リピート演奏時に点灯します。

15. 全曲リピート表示
全曲リピート演奏時に点灯します。

16. A地点表示
A-Bリピート動作でA地点を登録したときに点灯します。

17. B地点表示
A-Bリピート動作でB地点を登録したときに点灯します。

18. イントロ表示
イントロ動作中に点灯します。

19. プログラム表示
プログラム動作中に点灯します。

20. トラック表
CDに収録されているトラック番号（曲の番号）を表示します。
演奏中は点滅し、演奏が完了すると消灯します。
※ 表示は16トラックまでです。

21. 再生表示
演奏中に点灯します。

22. 一時停止表示
一時停止中に点灯します。

23. リメイン表示
表示切り換えキーで残り時間に切り換えたときに点灯します。

24. トラック表示
CD読み込み完了時は収録されているトラック数（曲数）表示し、演奏中は演奏しているトラック番号（曲の番号）を表示します。

25. 時間表示
CD読み込み完了時はCD全体の収録時間を表示し、演奏中はその曲の経過時間または残り時間を表示します。

■ CDプレーヤーをお使いになる前に

● 本機は COMPACT disc DIGITAL AUDIO のマークのあるコンパクトディスクとCD-Rに対応していますが、CD-RWに書き込んだものは再生できません。なお、CD-Rはディスクのメーカーによって反射率や書き込む機器などの違いで、再生できないものもありますので注意してください。

● 本機のCDプレーヤーは8 cmのシングルCDは演奏できませんので、絶対に入れないでください。取り出しができなくなります。

● 温度の低い場所から急に高い場所に移動して使用すると、ディスクや光学部品に水滴が付いて（結露して）くもり、正常な動作をしない場合があります。
ディスクがくもっているときは、乾いたやわらかい布でふいてください。光学部品がくもっているときは、約1時間放置しておくと自然にくもりが取れて正常に動作します。

● ディスクを出し入れするときは、ディスク挿入口に無理な力をかけないでください。本機の故障の原因となったり、ディスクに傷を付けたりすることがあります。

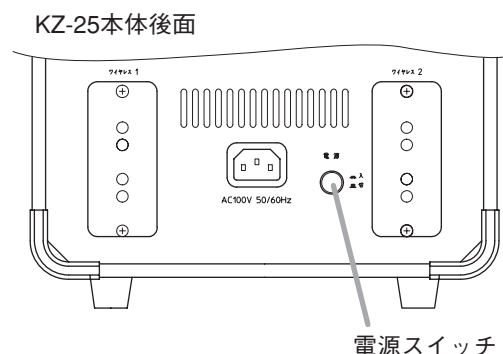
● ディスクを入れたままでの以下の状態では、ディスクを取り出せなくなります。
・電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたりした場合
・電池を取り出したり、電池が古くなって電圧が7 V以下になったりした場合
・ニカド蓄電池の電圧が7 V以下になった場合

※ ディスクを取り出すときは、本機の電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチを入れ、CDプレーヤーの取り出しキーを押してください。

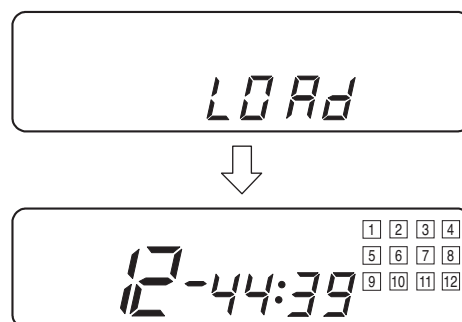
● CDプレーヤーは精密機器です。本機を移動するときは、必ずディスクを取り出してください。

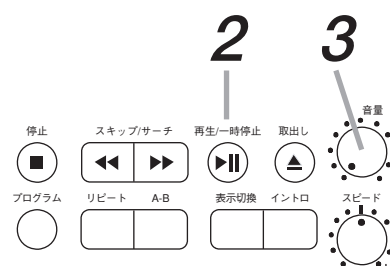
■ CD演奏のしかた

CD演奏の前に、本機の電源スイッチを「入」にする。
電源スイッチは、本体の後面にあります。

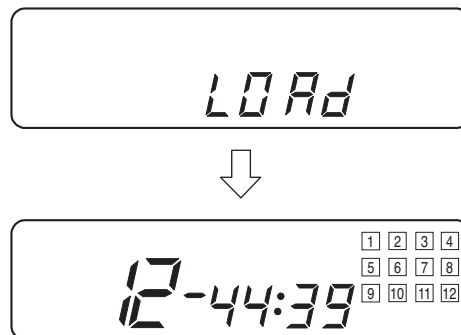
KZ-25本体後面

● 通常演奏をする

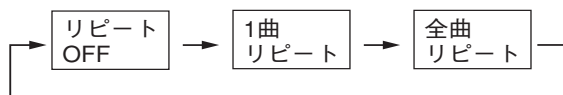
1 CDをディスク挿入口に入れる。
ディスクの印刷面（レーベル面）を上にして入れてください。自動的に収納し、表示部に「LOAd」が表示され読み込みをします。
読み込みが完了すると、表示部に全トラック数（全曲数）、全演奏時間、およびトラック表が表示され停止状態になります。

※ 右図の例：12トラック、全演奏時間44分39秒

2 再生／一時停止キーを押す。
1トラック（1曲）目から演奏を開始します。

3 CD音量つまみで音量を調節する。
つまみを時計方向に回すと音が大きくなり、反時計方向に回すと音が小さくなります。

● リピート演奏をする

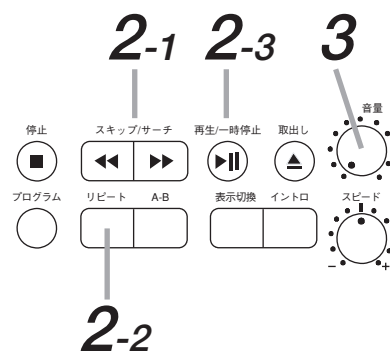
1 **CDをディスク挿入口に入れる。**

ディスクの印刷面（レーベル面）を上にして入れてください。自動的に収納し、表示部に「LOAd」が表示され読み込みをします。
読み込みが完了すると、表示部に全トラック数（全曲数）、全演奏時間、およびトラック表が表示され停止状態になります。
※ 右図の例：12トラック、全演奏時間44分39秒

2 **リピート演奏状態を選択する。**

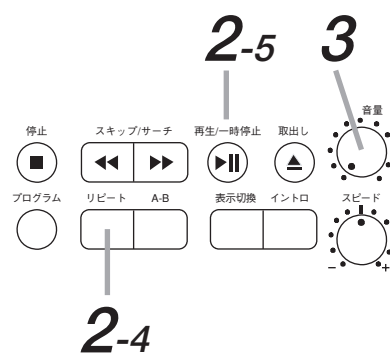
「リピートOFF」「1曲リピート」「全曲リピート」のいずれかを選択できます。
※ CD読み込み完了後は「リピートOFF」状態です。
※ リピートキーは、押すごとに以下の演奏状態となります。

［1曲リピートをする場合］

2-1 スキップ／サーチキーでリピート演奏したい曲を選ぶ。

2-2 リピートキーで「**REPEAT 1**」を選択する。
表示部のリピート表示（REPEAT）と1曲リピート表示（1）が点灯します。

2-3 再生／一時停止キーを押す。
選んだ曲を繰り返し演奏します。

［全曲リピートをする場合］

2-4 リピートキーで「**REPEAT ALL**」を選択する。
表示部のリピート表示（REPEAT）と全曲リピート表示（ALL）が点灯します。

2-5 再生／一時停止キーを押す。
全曲を繰り返し演奏します。

3 **CD音量つまみで音量を調節する。**

つまみを時計方向に回すと音が大きくなり、反時計方向に回すと音が小さくなります。

● A-B間リピート演奏をする

任意のA地点とB地点間を繰り返して演奏します。

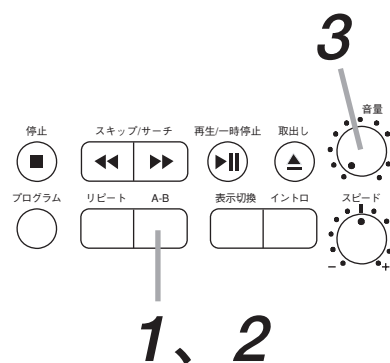
ご注意

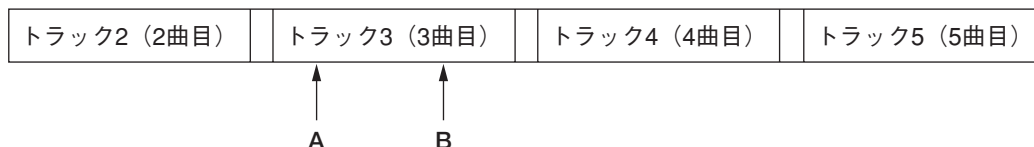
- A、Bの設定は連続した1区間だけです。
- A-B間リピートを解除するには、A-B間リピートの演奏中にA-Bリピートキーを押してください。
  （通常の演奏状態に戻ります。）

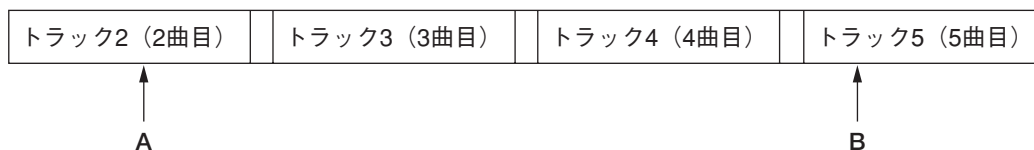
1 **まず、任意のA地点を設定する。**
通常の演奏状態でA-Bリピートキーを押します。

2 **次に、任意のB地点を設定する。**
A地点を設定後、もう一度A-Bリピートキーを押します。

※ これで、設定したA-B間を繰り返して演奏します。

3 **CD音量つまみで音量を調節する。**
つまみを時計方向に回すと音が大きくなり、反時計方向に回すと音が小さくなります。

［設定例1］

3曲目のAからBまでを繰り返して演奏します。

［設定例2］

2曲目のAから5曲目のBまでを繰り返して演奏します。

● プログラム演奏をする

最大20曲までの曲と曲順を自由に設定し演奏します。

ご注意

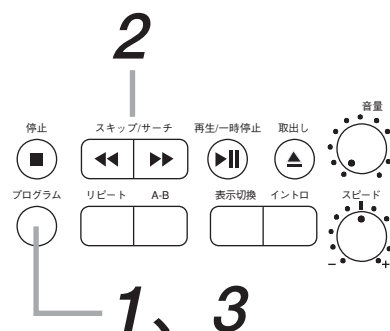
- 最大20曲まで登録できます。
- プログラム演奏を解除するには、プログラム演奏中にプログラムキーを押してください。（1曲目から通常演奏します。）

1 **CD読み込み完了後に、プログラムキーを押す。**

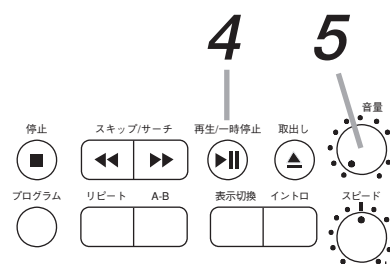
2 **スキップ／サーチキーで登録したいトラック（曲）番号を表示させる。**

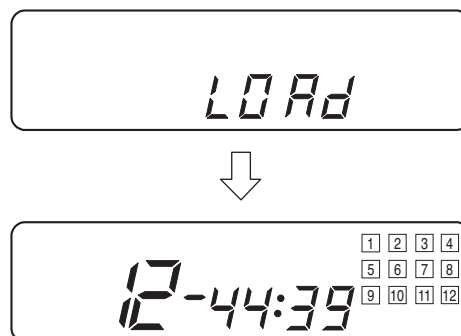
3 **プログラムキーを押して登録する。**

プログラムの最初に1曲目を登録するとき

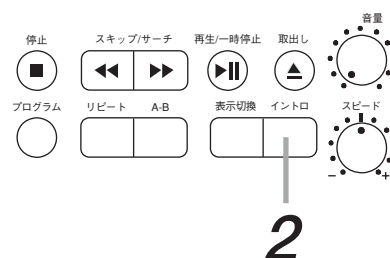
手順1の後に曲番号は「1」を表示しますが、スキップ／サーチキーで一度他の曲番号を表示させ、再度「1」を表示させてからプログラムキーを押してください。

※ 手順1～3を繰り返し、最大20曲まで登録できます。

4 **再生／一時停止キーを押す。**
プログラム演奏を開始します。

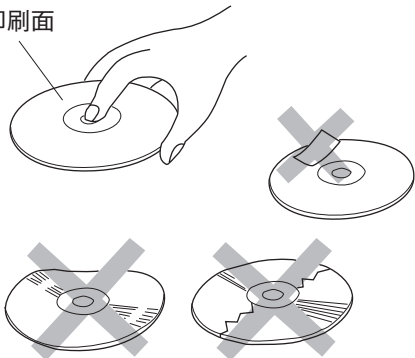
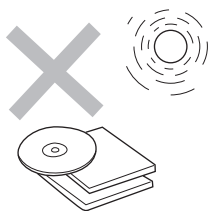
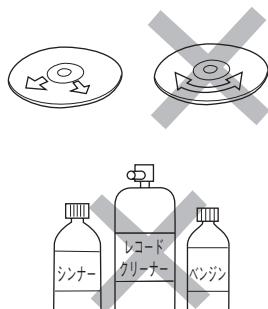
5 **CD音量つまみで音量を調節する。**
つまみを時計方向に回すと音が大きくなり、反時計方向に回すと音が小さくなります。

● イントロ演奏をする

1 **CDをディスク挿入口に入れる。**
ディスクの印刷面（レーベル面）を上にして入れてください。自動的に収納し、表示部に「LOAd」が表示され読み込みをします。
読み込みが完了すると、表示部に全トラック数（全曲数）、全演奏時間、およびトラック表が表示され停止状態になります。
※ 右図の例：12トラック、全演奏時間44分39秒

2 **イントロキーを押す。**
CDに収録されているすべての曲の頭から10秒間ずつ順番に演奏します。最後の曲の10秒間が終わると、CD読み込み完了状態で停止します。

メ　モ

イントロ演奏中にイントロキーを押すと、イントロ演奏を解除し通常演奏になります。

■ コンパクトディスクの取り扱いかた

コンパクトディスクの汚れ、ごみ、傷、そりなどが音飛びや音質の低下など誤動作の原因となることがあります。美しい音で楽しめるよう次のことにご注意ください。

左記マークの付いているコンパクトディスクおよび書き込み済みのCD-Rをご使用ください。

- ディスクを持つときは、演奏面をできるだけさわらないようにしてください。
- 印刷面や演奏面に、紙やシールなどを貼り付けたり傷を付けたりしないようにしてください。
- セロハンテープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、はがしたりしたあとがあるディスクは使用しないでください。ディスクが取り出せなくなったり本機が故障したりする原因となることがあります。
- 演奏中のディスクは高速回転しますので、ひびの入ったディスクや大きくそったディスクは使用しないでください。

- そらないように必ずケースに入れ、直射日光の当たる場所には保管しないでください。特に夏期、直射日光下で閉めきった車の中などは、かなり高温になりますので放置しないでください。
- CD-Rに書き込まれたものは特に直射日光に当てないように保管してください。

- 使用する前に演奏面に付いたほこり、ごみ、指紋などを柔らかい布でディスクの内周から外周方向へ軽く拭いてください。
- レコードスプレー、帯電防止剤などは使用しないでください。またベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品をかけるとディスクを傷めることがありますので使用しないでください。

●12 cm CDと8 cm CDについて

コンパクトディスクには、直径の大きさにより12 cmタイプと8 cmタイプの2種類があります。
本機では、8 cm CDは使用できません。
8 cm CDを挿入すると、取り出しができなくなることがあります。

●市販のレンズクリーナーディスクは使用しないでください。

有線マイクの使いかた

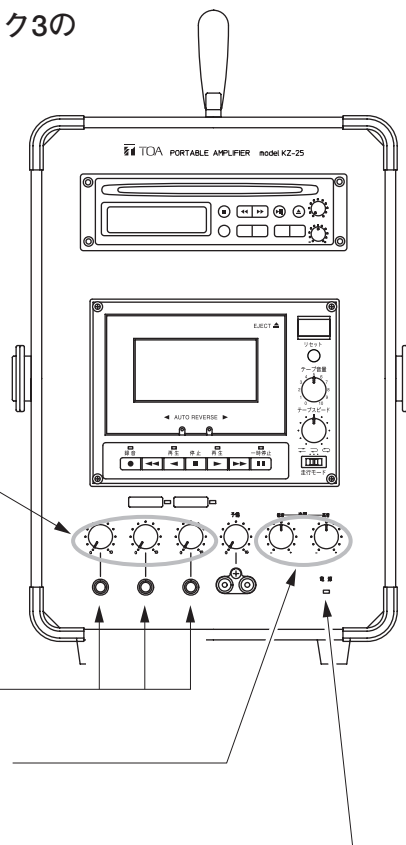
1 有線マイクロホンをマイク1、マイク2、またはマイク3の入力端子に接続する。

メ モ

マイク2、マイク3の入力ジャックに有線マイクロホンを接続すると、ワイヤレスマイクは切断されます。

3 接続したマイクロホンに対応した音量つまみを回して音量を調節する。

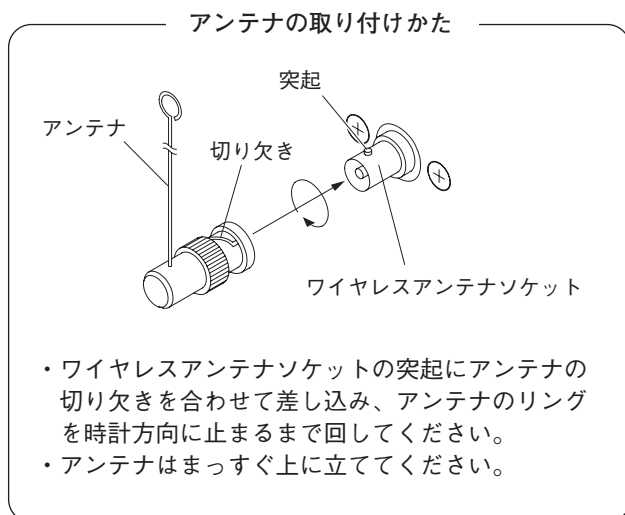
4 高音と低音の音質調節つまみを回して、音質を調節する。

2 電源スイッチ（後面）を入れ、電源表示灯（前面）が点灯していることを確かめる。

ワイヤレスマイクの使いかた

1 **付属のアンテナ2本を後面のワイヤレスアンテナソケットに取り付ける。**

※ 必ず2本とも取り付けてください。

アンテナの取り付けかた

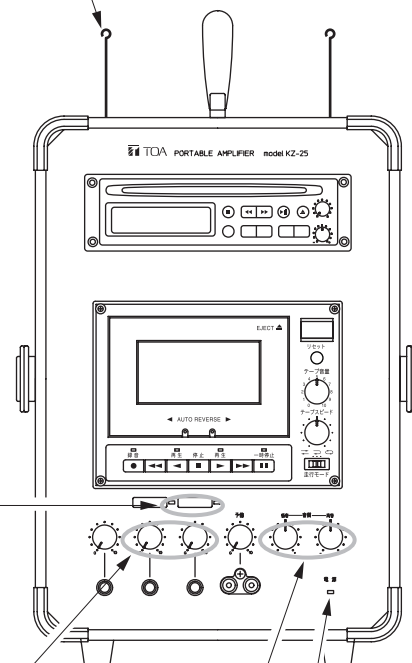
・ワイヤレスアンテナソケットの突起にアンテナの切り欠きを合わせて差し込み、アンテナのリングを時計方向に止まるまで回してください。
・アンテナはまっすぐ上に立ててください。

3 **ワイヤレスマイク（別売）の電源スイッチを入れる。**

ワイヤレス受信表示ランプが点灯します。

※ ワイヤレス2のチューナーは内蔵していますが、ワイヤレス1のチューナーは別売品です。

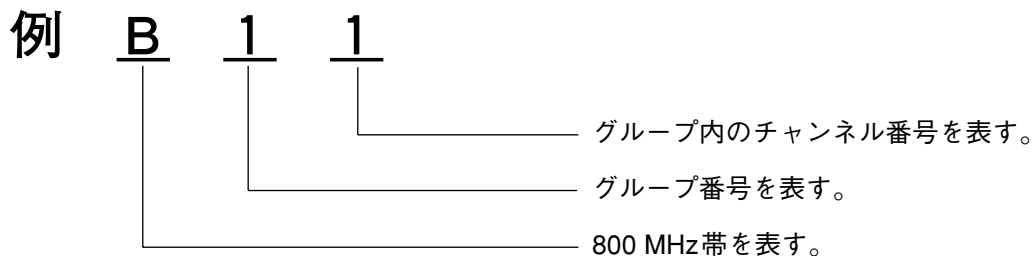
4 **ワイヤレス2またはワイヤレス1の音量つまみを回して音量を調節する。**

5 **高音と低音の音質調節つまみを回して、音質を調節する。**

2 **電源スイッチ（後面）を入れ、電源表示灯（前面）が点灯していることを確かめる。**

ご注意

- ワイヤレスマイクは当社の800 MHz帯B型ワイヤレスマイクを使用してください。
- ワイヤレス2のチューナーユニットのグループとチャンネルは、工場出荷時にチャンネル呼称B11に設定されています。
- ワイヤレスマイク1とワイヤレスマイク2は同一グループの異なるチャンネルに設定してください。同じチャンネルにすると混信や異音の原因になります。
- 同じチャンネル呼称のマイクは同時に使用できません。
- 同一場所での同時使用は、グループ番号が同じマイクロホンに限って最大6チャンネルまでできます。
（ポータブルアンプにはその中の2つのチャンネルを設定します。）
- ポータブルアンプとワイヤレスマイクの距離は3 mから20 m程度で使用してください。
- 3 m以内で使用すると雑音を発生したり、混信の原因になることがあります。
- 2つの異なるチャンネルを同時に使用するとき、2つのマイク間の距離は50 cm以上離してください。
- ポータブルアンプの電源スイッチを「入」にして、ワイヤレスマイクの電源を入れる前にポータブルアンプの受信表示ランプが点灯するときは、設定されたチャンネルが使用中です。他のチャンネルに変更してください。
- シンセサイザー方式のワイヤレスマイクおよびチューナーユニットは、混信妨害を受ける場合、トーン周波数を変えることで影響を軽減することができます。詳しくは「トーンスイッチについて」（☞ P. 23）をご覧ください。このとき組み合わせるワイヤレスマイクのトーンスイッチも変更が必要ですので、ワイヤレスマイクの取扱説明書も併せてご覧ください。

■ 800 MHz帯ワイヤレスマイクロホンのチャンネル呼称について

チャンネル呼称の説明

■ 周波数の設定のしかた

本機のチューナーユニットはあらかじめチャンネル呼称B11に設定されています。チューナーユニットを増設したり、使用中に混信妨害が発生したときには異なるチャンネルを設定してください。設定方法は以下のとおりです。
グループおよびチャンネルを設定するときは、必ず本体後面の電源スイッチを「切」にしてから行ってください。

1 設定するグループとチャンネル番号を決める。

※ 下記の周波数表を参照してください。

ご注意

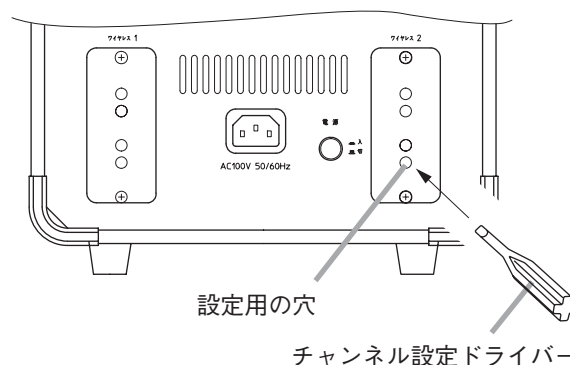
ワイヤレスマイクを同時に2本以上使用するときは、必ず同じグループの中から異なるチャンネルを選んでください。

周波数表

グループ	チャンネル	呼称	周波数（MHz）	グループ	チャンネル	呼称	周波数（MHz）	グループ	チャンネル	呼称	周波数（MHz）
1	1	B11	806.125	3	1	B31	806.625	5	1	B51	807.625
	2	B12	806.375		2	B32	806.875		2	B52	808.125
	3	B13	807.125		3	B33	807.375		3	B53	808.375
	4	B14	807.750		4	B34	808.250		4	B54	808.750
	5	B15	809.000		5	B35	808.625		5	B55	809.625
	6	B16	809.500		6	B36	809.250	6	1	B61	807.250
2	1	B21	806.250	4	1	B41	806.750				
	2	B22	806.500		2	B42	807.500				
	3	B23	807.000		3	B43	808.000				
	4	B24	807.875		4	B44	809.125				
	5	B25	808.500		5	B45	809.375				
	6	B26	808.875		6	B46	809.750				

2 本体または増設チューナーユニットに付属のチャンネル設定ドライバーを用いて、設定スイッチの矢印をあらかじめ決めたグループおよびチャンネル番号の数字に設定する。

※ ワイヤレス1は、ワイヤレスチューナー増設用です。

※ ワイヤレス2は、標準でワイヤレスチューナーを装着しており、出荷時点でB11に設定しています。

ご注意

増設したチューナーユニットのグループ番号は、ワイヤレス2のチューナーユニットと同じ番号に設定してください。チャンネル番号は、異なる番号に設定してください。

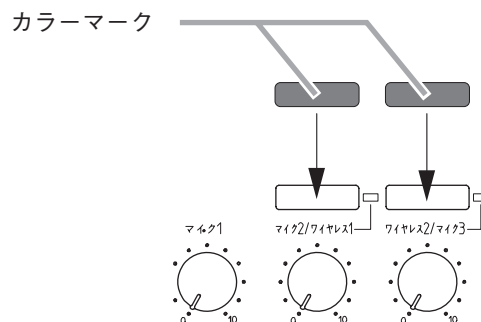
3 ワイヤレスマイクのグループおよびチャンネル番号を、チューナーユニットと同じグループおよびチャンネル番号に設定する。

ご注意

ワイヤレスマイクに付属の設定ドライバーで、設定スイッチの矢印をチューナーユニットと同じグループおよびチャンネル番号の数字に設定してください。詳しくは、ワイヤレスマイクの取扱説明書をご覧ください。

4 音量つまみの上部にあるカラーマーク貼付位置に、ワイヤレスマイクと同じ色のカラーマーク（付属品）を貼る。

メ　モ

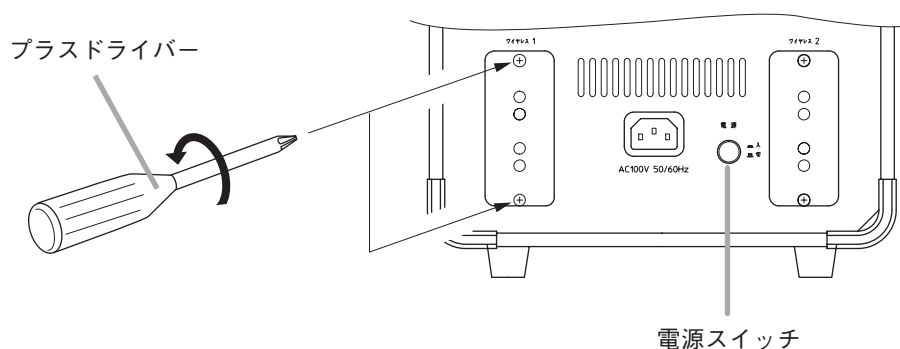
チューナーユニット収納部の「ワイヤレス1」は音量つまみ上部の「マイク2／ワイヤレス1」に、「ワイヤレス2」は「ワイヤレス2／マイク3」に対応しています。

■ ワイヤレスチューナーユニットの増設のしかた

増設チューナーユニットは、ダイバシティチューナーユニットWTU-1820を使用してください。

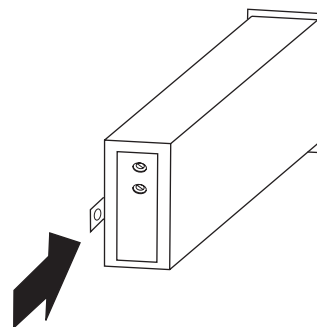
メ　モ

シングルチューナーユニットWTU-1720とダイバシティチューナーユニットWTU-1820は同じ大きさですので、間違えないようにしてください。

1 電源スイッチを「切」にする。

2 収納ふたを外す。

3 チューナーユニットを下図のように挿入し、奥のコネクターに確実に差し込む。

ご注意

チューナーユニットの上下を間違えないようにご注意ください。

4 収納ふたを元どおりに取り付ける。

ご注意

収納ふたを取り付けないと、チューナーユニットが外れることがあります。

※ チューナーユニットの周波数の設定は、P. 20「周波数の設定のしかた」をお読みください。

■ トーンスイッチについて

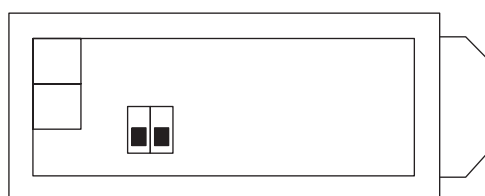
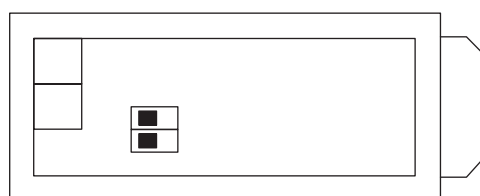
このスイッチ設定を変更するときには販売店にご相談ください。

●「トーン」のはたらき

ワイヤレスマイクの電源が入っていないときや、ワイヤレスマイクの電源は入っていても妨害電波が強いときに、ワイヤレスアンプから妨害電波の信号や雑音が聞こえることがあります。
この対策として、トーン信号の含まれていないワイヤレスマイクの電波は、音声を出力しないようにしています。シンセサイザー方式のワイヤレスマイクおよびチューナーユニットはこのトーン信号を3種類搭載しており、状況により切り換えることができます。

● トーンスイッチの設定のしかた

1 **チューナーユニットを引き出す。**
本体後面の収納ふたを外して引き出します。
収納ふたの外しかたは、P. 22「ワイヤレスチューナーユニットの増設のしかた」をお読みください。

2 **チューナーユニットのふたを外す。**

WTU-1820　　WTU-1720

3 **基板上の2列のトーンスイッチをボールペンの先などで設定する。**
トーン信号の周波数はスイッチ位置により下表のように変化します。

スイッチ位置	1 2 OFF	1 2 OFF	1 2 OFF	1 2 OFF
トーン信号周波数	B1,B3 グループ 32. 768 kHz B2,B4 グループ 32. 718 kHz B5,B6 グループ 32.818 kHz	すべてのグループ 32.718 kHz	すべてのグループ 32.768 kHz	すべてのグループ 32.818 kHz

ご注意

- トーンスイッチを切り換える際、内部の調整箇所は絶対に回さないでください。
- ワイヤレスマイクとチューナーユニットは、グループ、チャンネル番号およびトーン信号の周波数がそれぞれ一致しないと正しく受信できません。
- お買い上げの際はトーンスイッチの位置は1、2ともに「OFF」の位置に設定しています。
- この機能は、トーンスイッチのついているワイヤレスマイクとチューナーユニットの組み合わせでのみ使用できます。トーンスイッチのついていない機器の組み合わせでは、スイッチ1、2ともに「OFF」の位置で使用してください。

カセットデッキの使いかた

■ 各部の名称とはたらき

1. 録音ボタン［●］および録音状態表示灯（赤色）
このボタンを押すと録音待機状態になり、一時停止状態表示灯が橙色に、録音状態表示灯が赤色に点灯し、録音走行方向を示す再生方向表示灯が緑色に点滅します。この状態で、点滅して走行方向を示している再生ボタンを押すか、一時停止ボタンを押すと録音が開始されます。

2. 早送り・巻き戻しボタン［◀◀ / ▶▶］
このボタンを押すと矢印の方向にテープが早送りまたは巻き戻しされます。

3. 再生ボタン［◀ / ▶］および走行方向表示灯（緑色）
このボタンを押すと矢印の方向にテープが走行し、再生が開始されます。

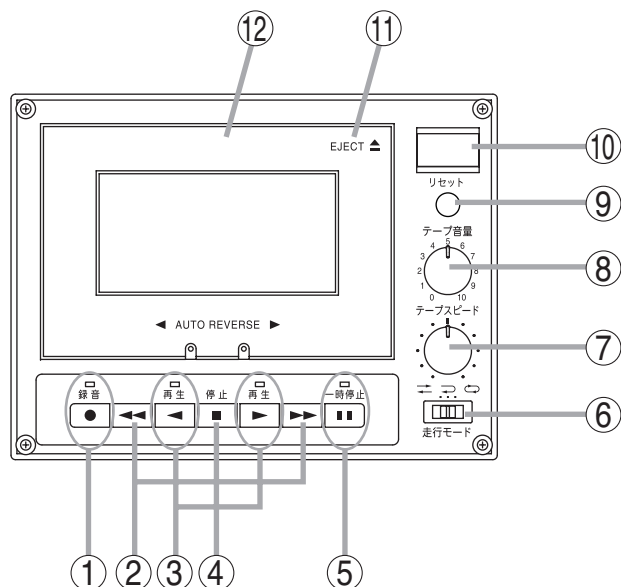
4. 停止ボタン［■］
このボタンを押すとテープの走行が停止します。

5. 一時停止ボタン［❚❚］および一時停止表示灯（橙色）
このボタンを押すと早送りおよび巻き戻しを除き、テープの走行が一時停止します。

6. 走行モードスイッチ
テープの走行モードを切り換えるスイッチです。3つのモード（⇄、⊃、⟲）から1つを選択します。

7. テープスピードつまみ［テープスピード］
テープのスピードを変えたいときに調節します。つまみの印が上を示しているときが標準速度です。左に回せば遅くなり、右に回せば早くなります。この調節は再生のときのみはたらきます。

8. テープ音量つまみ［テープ音量］
カセットテープの音量を調節します。

9. リセットボタン
リセットボタンを押すと数字は「0000」に戻ります。

10. テープカウンター
テープのカウンターはテープの進みぐあいを示します。右方向に走行すると数字が増え、左方向に走行すると数字は減ります。

ご注意

電源スイッチを切ると、テープカウンターの数字は「0000」に戻ります。

11. EJECT［⏏］
表示の⏏部分を押すとカセットホルダーが開き、カセットテープを出し入れできます。

ご注意

テープ走行中はEJECT（⏏）操作をしないでください。テープを取り出すときは、停止ボタンを押してテープの停止を確認してから、この部分を押してください。

12. カセットホルダー
カセットテープの収納部です。

ご注意

- 電源スイッチを入れたとき、初期設定のため1秒間程度カセットデッキの動作音がすることがあります。
- カセットデッキの動作中に衝撃を与えないでください。誤動作することがあります。
- バッテリー電源で使用のときは、バッテリーが消耗すると誤動作することがあります。

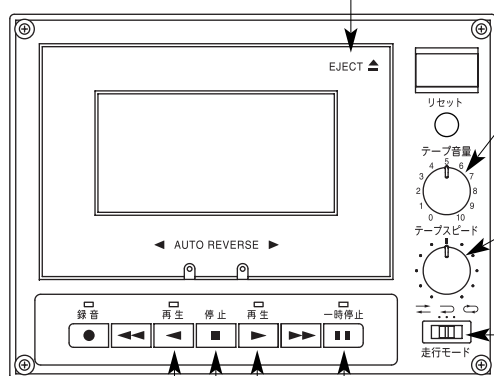
■ 再生のしかた

1 電源スイッチ（本体後面）を「入」にする。

2 **EJECT［⏏］部分を押し、カセットテープを入れる。**

カセットテープはテープの見える面を下にして入れてください。

3 **テープ走行モードスイッチで走行モードを選択する。**

走行モードについては、29ページをご覧ください。

4 **希望する方向の再生ボタン［◀ または ▶］を押す。**

テープが再生を開始し、走行表示灯が点灯して、テープがどちらの方向に走行しているかを示します。

5 **テープ音量つまみ［テープ音量］を調節する。**

6 **必要に応じて、テープスピードつまみ［テープスピード］を左右に回して、再生スピードを調節する。**

7 **再生途中で一時停止するときは、一時停止ボタン［❚❚］を押す。**

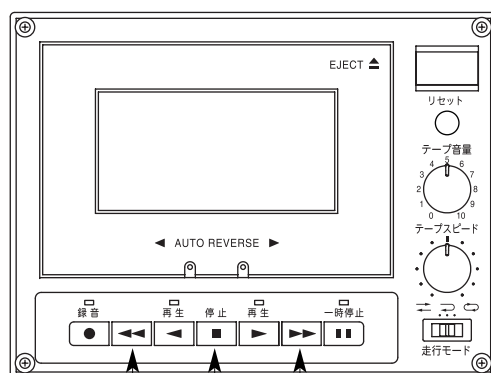
再生待機状態になります。一時停止表示灯が点灯し、走行表示灯が点滅します。再び再生するときは、一時停止ボタンまたは点滅している方向の再生ボタンを押します。

8 **再生を止めるときは停止ボタン［■］を押す。**

テープ走行が停止します。

ご注意

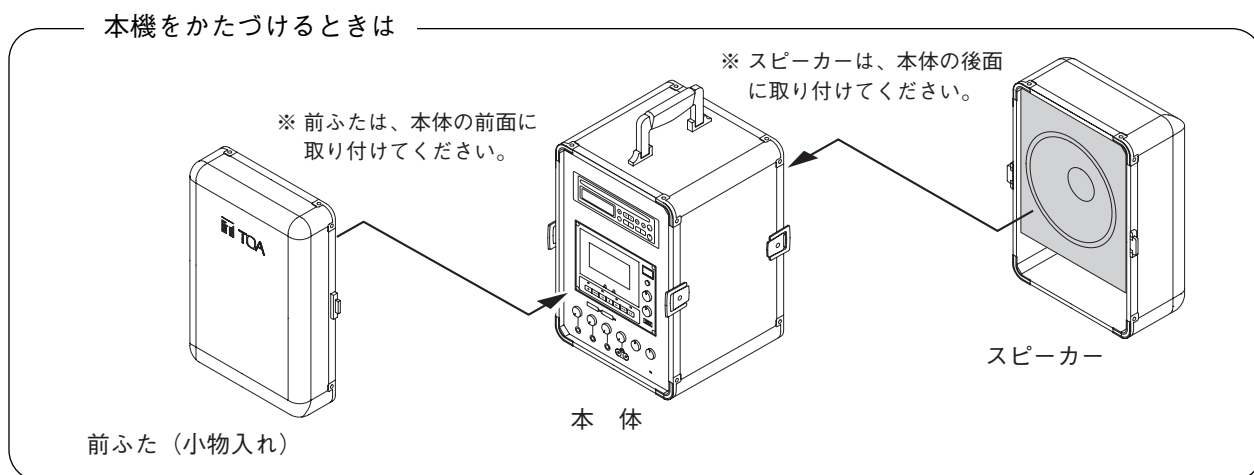
テープ走行中に電源スイッチを切らないでください。テープが取り出せなくなります。
テープが取り出せなくなったときは、もう一度電源スイッチを入れ、カセットホルダーに表示のEJECT（⏏）部分を押してください。

■ 巻き戻しと早送りのしかた

1 **希望する方向の早送りまたは巻き戻しボタン［ ◀◀ / ▶▶ ］を押す。**

直前に再生していた方向と同じ方向の矢印ボタンを押すと早送りになります。
逆の方向の矢印ボタンを押すと巻き戻しになります。

2 **早送りまたは巻き戻しを止めたいときは停止ボタン［■］を押す。**

ご注意

- 早送りまたは巻き戻し中に再生ボタンを押すと、テープが巻き込まれることがありますので停止ボタンを押してから再生ボタンを押してください。
- テープの再生中に早送りまたは巻き戻しボタンを押すと、頭出し選曲モード（ ☞ P. 28）になります。
- 録音中は早送りまたは巻き戻しボタンは働きません。
- テープの終わりまで早送りまたは巻き戻しをすると、走行モードの選択にかかわらず自動停止します。
- カセットテープは磁気を利用した録音方式ですので本機をかたづけるときは、下図のとおりスピーカー部を本体の後面パネル側に取り付けてください。
  カセットデッキの中にテープを入れたまま、スピーカー部を本体の前面パネル側に取り付けて長時間放置すると、録音内容の質が劣化することがあります。

■ 録音のしかた

このカセットデッキには自動録音レベル調整機能を内蔵していますので、録音レベルの設定は不要です。

1 電源スイッチ（本体後面）を「入」にする。

2 EJECT［⏏］部分を押し、カセットテープを入れる。

カセットテープはテープの見える面を下にして入れてください。

3 テープ走行モードスイッチで走行モードを選択する。

走行モードについては29ページをご覧ください。

4 録音ボタン［●］を押す。

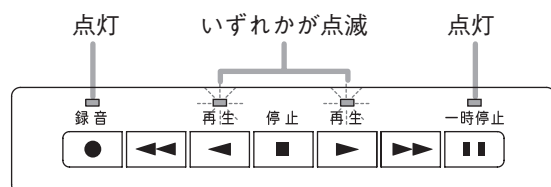
録音待機状態になります。
録音表示灯と一時停止表示灯が点灯し、走行表示灯が点滅します。

5 一時停止ボタン［❚❚］または点滅している方向の再生ボタン（［◀］または［▶］）を押す。

これよりテープが録音を開始し、走行表示灯が点灯して、テープがどちらの方向に走行しているかを示します。

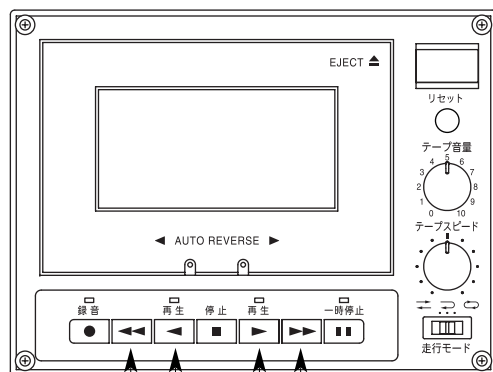
6 録音途中で一時停止するときは、一時停止ボタン［❚❚］を押す。

手順4と同じ録音待機状態になります。

7 録音を停止するときは、停止ボタン［■］を押す。

ご注意

- 録音は入力されている音がすべてミキシングされて録音されます。
- カセットテープの誤消去防止用つめが折れている場合は録音できません。
- 録音の前にテープカウンターのリセットボタンを押して「0000」の状態にしておくか、テープカウンターの数字をメモしておくと、録音を開始した位置を知ることができます。

■ 頭出し選曲のしかた

頭出し選曲は録音されている各曲間の無録音部分を自動的に見つけ出し、曲の始めから再生する機能です。

1 **再生ボタン［ ▶ ］を押す。**

再生中になります。

2 **その曲を頭出しするときは、巻き戻しボタン［◀◀］を押す。**

次の曲の頭出しをするときは、早送りボタン［▶▶］を押す。

無録音部分を見つけ、自動的に再生します。

※ 再生キー（ ◀ ）で再生状態にしているとき、巻き戻しボタンは（▶▶）、早送りボタンは（◀◀）になります。

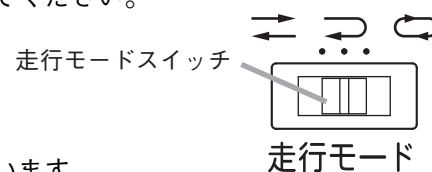
ご注意

- 頭出し選曲は一曲のみです。
- 頭出しには3秒以上の無録音部分がテープに必要です。5秒以上の無録音部分を作ることをお勧めします。
- 無録音部分を作るには、録音中に各入力音量つまみを左側に回しきり、「０」の位置で録音を続けます。
- 曲中に特にレベルの低いところがあるテープでは、その部分を無録音部分として再生を始めることがあります。
- 再生の一時停止状態から巻き戻しまたは早送りボタンを押して頭出し選曲を行うと、曲の頭を見つけた後、再び一時停止状態となります。

■ 走行モードについて

3つのモードのテープ走行があります。

1. 一方向モード“［⇄］　：片道だけ再生や録音をし、テープの終わりで停止します。
2. 往復モード［↩］　：往復の再生や録音をし、帰りのテープの終わりで停止します。
3. エンドレスモード［⟲］：連続して再生します。ただし録音時は往復モードと同じ動作となります。

走行モードスイッチを使用して、希望するテープ走行モードを選択してください。

走行モードスイッチ

走行モード

以下の表は走行モードスイッチと走行ボタン操作による動作を示しています。

［再生のとき］

走行モード	操作ボタン	動作
⇄	►	1. テープ走行（►）⇨ 2. テープの終わりで停止
⇄	◄	1. テープ走行（◄）⇨ 2. テープの終わりで停止
↩	►	1. テープ走行（►）⇨ 2. テープの終わりで自動反転 ⇩ 3. テープ走行（◄）⇦ 4. テープの終わりで停止
↩	◄	1. テープ走行（◄）⇨ 2. テープの終わりで自動反転 ⇩ 3. テープ走行（►）⇦ 4. テープの終わりで停止
⟲	►	1. テープ走行（►）⇨ 2. テープの終わりで自動反転 ⇩ 3. テープ走行（◄）⇦ 4. テープの終わりで自動反転 ⇧ 1.
⟲	◄	1. テープ走行（◄）⇨ 2. テープの終わりで自動反転 ⇩ 3. テープ走行（►）⇦ 4. テープの終わりで自動反転 ⇧ 1.

［録音のとき］

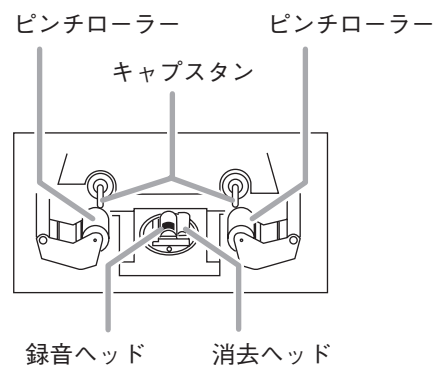
走行モード	操作ボタン	動作
⇄	● ►	1. テープ走行（►）⇨ 2. テープの終わりで停止
⇄	● ◄	1. テープ走行（◄）⇨ 2. テープの終わりで停止
↩ ⟲	● ►	1. テープ走行（►）⇨ 2. テープの終わりで自動反転 ⇩ 3. テープ走行（◄）⇦ 4. テープの終わりで停止
↩ ⟲	● ◄	1. テープ走行（◄）⇨ 2. テープの終わりで自動反転 ⇩ 3. テープ走行（►）⇦ 4. テープの終わりで停止

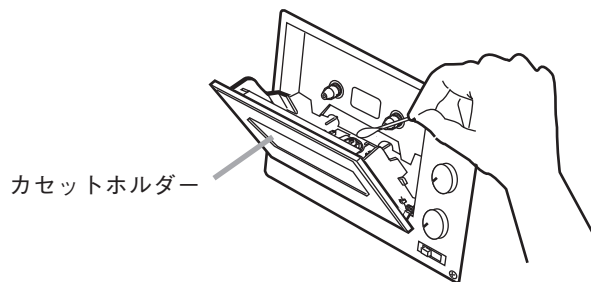
お手入れのしかた

● ヘッド、キャプスタン、ピンチローラーの清掃

カセットデッキを長時間使用すると、ヘッド、キャプスタン、ピンチローラーが汚れ、音が小さくなったり、高音が出なくなったり、回転ムラが起こったりすることがあります。定期的に市販のクリーニングテープでクリーニングするか、アルコールを含ませた綿棒で清掃してください。

ご注意

ドライバーの先や金属棒などは絶対に使用しないでください。

綿棒で清掃する場合は、本体の電源スイッチを切り、右図のようにカセットホルダーを開けて行ってください。

※ カセットホルダーを取り外すことはできません。

● ヘッドの消磁

カセットデッキを長時間使用すると、ヘッドが磁気を帯び、大切な録音内容に雑音が入ったり、消えてしまったりすることがあります。市販のヘッドイレーサーを用いて、定期的にヘッドの消磁を行ってください。

ご注意

ヘッドにイレーサー以外の金属物や磁石を近づけないでください。

カセットデッキの機構部に注油すると故障の原因となります。
絶対に注油しないでください。

カセットテープについて

● **本機はノーマルテープ専用です。**
クロームテープやメタルテープは使用しないでください。
ノーマルテープ以外を使用すると、聞きづらい音になったり、録音時に前の音が消えないことがあります。

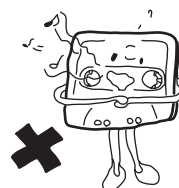
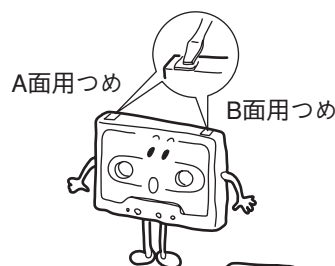
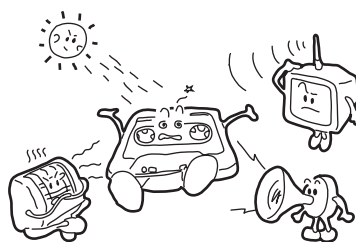
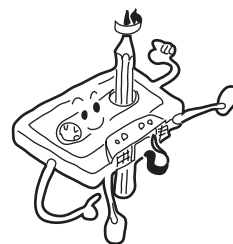
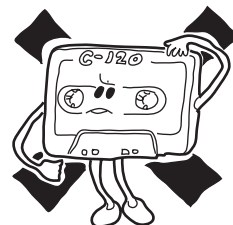
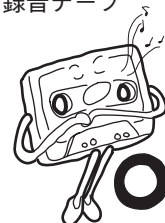
● **ドルビーなどの雑音低減回路を入れて録音されたテープを再生すると、聞きづらい音になることがあります。**
雑音低減回路を入れないで録音されたテープを使用してください。

● **C-120テープはご使用にならないでください。**
テープが非常に薄く弱いため回転部に巻き込むことがあります。
C-46、C-60またはC-90などを使用してください。

● **テープはたるみをとってからご使用ください。**
たるんだまま使用すると、テープが切れたり巻き込むことがあります。たるんでいるときは、右図のように鉛筆などでたるみをとってから使用してください。

● **カセットテープの保管場所にご注意ください。**
直射日光の当たる所、暖房機器の近くなどの温度の高い所、湿気の多い所、またはテレビやスピーカーの近くなど磁気のある所での保管は避けてください。テープが変質したり、録音が消えたり、雑音が入ることがあります。

● **カセットテープの誤消去防止について**
カセットテープは大切な録音内容を間違って消去してしまわないように誤消去防止つめがついています。録音した音を消したくないとき、つめをドライバの先などで折ってください。また、カセットテープのつめが折られていると再録音ができません。つめが折られているテープに録音したいときにはセロハンテープなどを貼ってください。

● **エンドレステープはご使用にならないでください。**
エンドレステープを使用すると、テープが破損するだけでなく、テープ巻き込みなどにより、本機が故障する原因となります。

著作権について

- テレビ、ラジオ放送、レコード、CDなどから録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- したがって、それらから録音したりテープを売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。
- 使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や申請その他の手続きについては、「日本音楽著作権協会」（JASRAC）へお尋ねください。

社団法人　日本音楽著作権協会	
● 本部 〒151-8540　東京都渋谷区上原3-6-12	 TEL (03) 3481-2121（代表） URL http://www.jasrac.or.jp

故障とお考えになる前に

症　状		点検項目	処　置
電源スイッチを「入」にしても電源表示灯が点灯しない。（電源が入らない。）		【AC電源で使用のとき】 電源コードが本体とコンセントに接続されていますか？	本体のAC電源インレットとコンセントに、電源コードを接続してください。
		【DC12 Vバッテリーで使用のとき】 DC電源の接続コードが本体とバッテリーに接続されていますか？	DC電源の接続コードを確実に接続してください。 ※ バッテリーの電圧を測って10 V以下の場合は、充電済みのバッテリーと交換してください。
電源表示灯が点滅する。		【DC12 Vバッテリーで使用のとき】 バッテリーは充電されていますか？ バッテリーの容量が小さくありませんか？	完全に充電されたバッテリーをお使いください。 長時間お使いのときは、大容量のバッテリーに交換してください。
音が出ない。		スピーカーが接続されていますか？	スピーカーを確実に接続してください。
		本機以外のスピーカーが接続されていませんか？	本機のスピーカーを接続してください。
		音量つまみが「0」になっていませんか？	音量つまみを右の方向に回してください。
ワイヤレスマイクを使用のとき	受信表示灯が点灯しない。（受信しない）	チューナーユニットが入っていますか？	チューナーユニットを入れてください。
		ワイヤレスマイクの電源スイッチは「ON」になっていますか？	ワイヤレスマイクの電源スイッチを「ON」にしてください。
		ワイヤレスマイクの乾電池は消耗していませんか？	新しい乾電池と交換してください。
		ワイヤレスマイクの周波数（グループとチャンネル）とチューナーユニットの周波数（グループとチャンネル）が合っていますか？	ワイヤレスマイクとチューナーユニットの周波数（グループとチャンネル）を同じにしてください。
	音が出ない。	音量つまみが「0」になっていませんか？	音量つまみを右の方向に回してください。
カセットを使用のとき	テープの再生音が出ない。	テープ音量つまみが「0」になっていませんか？	テープ音量つまみを右の方向に回してください。
	録音状態にならない。	誤消去防止用のつめが折れていませんか？	つめの折れているみぞにセロハンテープを貼ってください。
	・録音再生音が割れている。 ・消去が完全にできない。 ・高音が出ない。	ヘッド、キャプスタンおよびピンチローラーが汚れていませんか？	ヘッド、キャプスタンおよびピンチローラーを清掃してください。
		テープがよれよれにいたんでいませんか？	別のテープで再生して、そのテープで問題ない場合は、テープを新しいものと取り換えてください。
	・回転ムラがある。 ・巻き戻し、早送りが遅い。	テープにたるみがありませんか？	テープのたるみを鉛筆などを使用して直してください。
	カセットテープが取り出せない。 ※ テープ走行中に電源を切ったり、バッテリーの電圧が下がって、カセット部が止まると、テープが取り出せなくなることがあります。 右の処置を施した後、EJECT（⏏）操作をしてください。	電源スイッチが切れていませんか？	電源スイッチを入れてください。
		【AC電源で使用のとき】 電源プラグがコンセントから抜けていませんか？	電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチを入れてください。
		【DC12 Vバッテリーで使用のとき】 バッテリーは充電されていますか？	AC電源があれば、電源プラグを差し込み、電源スイッチを入れてください。 AC電源がなければ、完全に充電されたバッテリーに交換してください。

	症　状	点検項目	処　置
CDプレーヤーを使用のとき	コンパクトディスク（CD）が入らない。	すでに、ディスクが1枚入っていませんか？	入っているディスクを取り出してから次のディスクを入れてください。
	ディスクを入れても出てきてしまう。	ディスクがひどく汚れていませんか？	ディスクのクリーニングをしてください。（☞ P. 16）
		直射日光が当たるなどして、機器の温度が極端に高くなっていませんか？	風通しの良い日陰に設置して、機器の温度が下がるようにしてください。
		結露していませんか？	ディスクを取り出し、しばらく放置してから使用してください。
	ディスクを入れても音が出ない。	内部スピーカー切換スイッチが「OFF」になっていませんか？	内部スピーカー切換スイッチを「ON」にしてください。
		CD音量つまみが「0」になっていませんか？	CD音量つまみを時計方向に回してください。
	音が飛んだり、同じところを演奏したりする。	ディスクが不良ではありませんか？	他のディスクを聞いてみてください。良くなれば、ディスクの不良が考えられます。
		ディスクがひどく汚れていませんか？	ディスクのクリーニングをしてください。（☞ P. 16）
	音質が悪い。	ディスクが不良ではありませんか？	他のディスクを聞いてみてください。良くなれば、ディスクの不良が考えられます。
		ディスクがひどく汚れていませんか？	ディスクのクリーニングをしてください。（☞ P. 16）
		結露していませんか？	ディスクを取り出し、しばらく放置してから使用してください。
	ディスクが取り出せない。 ※ ディスクを入れたまま電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたり、電池の電圧が低下したりすると、ディスクが取り出せません。右の処置を施した後、取り出しキーを押してディスクを取り出してください。	電源スイッチが切れていませんか？	電源スイッチを入れてください。
		【AC電源で使用のとき】 電源プラグがコンセントから抜けていませんか？	電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチを入れてください。
		【12 Vバッテリーで使用のとき】 バッテリーの充電はされましたか？	AC電源があれば、電源プラグを差し込み、電源スイッチを入れてください。
			AC電源がなければ、完全に充電されたバッテリーに交換してください。
	ディスクが入っているのに、電源を入れても演奏を開始しない。	ディスクが入った状態で電源スイッチを切ったり、電源コードを抜いたりしていませんか？	CDプレーヤーの再生／一時停止キーを押してください。 ※ 1曲目から演奏を始めます。

仕　様

電　源	AC	100 V、50/60 Hz
	DC	14 V（自動車用12 Vバッテリー）
定格出力	AC	20 W
	DC	20 W
最大出力（AC）		25 W
消費電力	AC	電気用品安全法：32 W、定格出力時：58 W
	DC	最大3.5 A
アンプ部周波数特性		70 ～15,000 Hz
アンプ部 S/N		60 dB以上
歪　率		5％以下（定格出力時）
入　力	有線マイク	3回路、−60 dBV、不平衡ホーンジャック、適合マイクインピーダンス600 Ω
	ワイヤレスマイク	2回路：有線マイクと切換式、1回路：ダイバーシティチューナー内蔵
	予　備	−20 dBV、10 kΩ、不平衡、RCAピンジャック×2
出　力	スピーカー	20 W、4 Ω、ホーンジャック
	ライン	0 dBV、600 Ω、不平衡ホーンジャック
アンテナ方式		ホイップアンテナ
チューナーユニット	受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
	受信感度	10 dBμV以下（S/N 25 dB、1 kHz変調±4.8 kHz偏移）
	スケルチ感度	12 dBμV
	S/N	60 dB以上（60 dBμV入力、±4.8 kHz偏移、Aカーブ使用）
スピーカー部形式		20 cmメカニカル2ウェイ、ダイナミックスピーカー、変形バスレフレックス
カセットデッキ部	トラック方式	2トラック、1チャンネル、モノラル
	録音方式	交流バイアス方式
	テープ速度	4.76 cm/sec、可変範囲±10％
	ワウフラッター	0.2 WRMS
	早送り・巻き戻し時間	約130秒
CDプレーヤー部	ディスク12 cm（8 cm CD不可）	CD（コンパクトディスク）、CD-R
	スピード可変範囲	−15～+20％
	ローディング	スロットイン方式
	機能	イントロ再生、1曲リピート、全曲リピート、A-Bリピート、プログラム再生
使用温度範囲		0℃～+40℃
寸　法		244（W）× 383（H）× 412（D）mm
仕上げ		パネル：黒（3分艶）、ケース：シルバー（表面アルミエンボス加工）
質　量		15 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード ………………………………………… 1
アンテナ …………………………………………… 2
スピーカースタンド金具 …………………… 1
カラーマーク（6色） ………………………… 1
チャンネル設定ドライバー ………………… 1